広報 まつやま

主な内容 No.1258

■人事行政の運営状況…… 4・5面
■国民健康保険の保険証がカード化……2面
■すごいもの博2013……3面
■市民ガイド ……7～11面

救急病院当番表（12月）を11面に掲載しています。

発行：松山市役所／編集：総合政策部広報課／毎月1日・15日 ☎ 948-6705 FAX 934-2578 HP http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

一人でも多くの人を笑顔に　全国に誇れる、わがまち松山

道後温泉本館改築120周年記念事業「道後オンセナート2014」キックオフ・シンポジウム開催

「道後オンセナート2014」のキックオフとなる「うぶ湯SYMPOSIUM」が10月10日、子規記念博物館で開催され、アートで彩る道後について参加アーティストからさまざまなアイデアが語られました。その一部をご紹介します。（敬称略）

石本 藤雄（ホテル HOTEL HORIZONTAL（ホリゾンタル））

フィンランドの広大な草原をテーマに、ホテル・旅館の一室を、焼物の作品やオリジナルの布を使って作品化する。展覧会のように作品を入れて見せる空間ではなく、自身の部屋に通じるような居心地のよい空間を作っていきたい。

栗栖 良依（スロー FACTORY（ファクトリー） in 道後）

商店街の皆さんと一緒に、ワークショップやディスカッションを通じていろんな表情を持つ新しいスタイルのキャラクターを開発する。それを基にしたお土産を作るほか、さまざまなシーンで活用できるよう仕上げていきたい。

月岡 彩（地元プロジェクト）

架空の旅行代理店「ツッキーツアーズ」を構想中。地元出身という目線で、知られざる道後の魅力を掘り下げ、観光客だけでなく地元の人も参加できて、新たな道後の魅力を引き出すことのできるツアーを企画する。

ひびの こづえ（アートパレード（LIVE（ライブ） BONE（ボーン））

400人の子どもたちが参加するパレードなどを実施する。子どもたちには事前に、麦わら帽子を使ってオリジナルの鷺（さぎ）の帽子を作ってもらうほか、大型の鷺バルーンの登場も検討している。

矢内原 充志（オンセナートユニフォーム）

イベントに採用されやすいジャンパーやTシャツではなく、長い歴史を持つ道後らしさと、男女や世代といった境界を超えるデザインを取り入れた「最古にして最先端」を表現できる新しいユニフォームを作り上げる。

真鍋 大度（ライゾマティクス）（本館プロジェクト）

光やコンピュータなど最先端技術を使ったアートを応用し、道後温泉本館を照らすようなことを試みたい。道後では周辺を歩く観光客たちの動きを解析したものを投影することを検討中。

シンポジウムに参加して　道後全体で積極的に作り上げる

黒川 あゆみさん（道後湯之町）

国内外のさまざまな分野で活躍中のアーティストが道後温泉本館120周年を盛り上げると聞き、私たちも何か力になればと思い参加しました。今、道後にあるもので住民が参加して一緒にアートを作り上げる作業はとても興味深く、これから先にも生かしていけるきっかけになれば良いと思います。

「道後オンセナート2014」に地元の人たちが楽しんで参加することで訪れる人も喜んでくれる、そんなイベントになることを期待しています。

お問い合わせは、道後温泉本館改築120周年記念事業実行委員会事務局（道後温泉事務所内）☎921-6464・FAX 934-3415へ

坊っちゃん劇場「伊佐庭如矢（いさにわゆきや）」がミュージカルに

坊っちゃん劇場（東温市）の第9作（2014年度）公演が「道後温泉」「伊佐庭如矢」を題材とした作品に決まり10月16日、市役所で記者発表がありました。

ミュージカルへの期待を語る野志市長

道後温泉・伊佐庭如矢のミュージカル化は、道後の住民や野志市長が坊っちゃん劇場へ働き掛け続けたことで実現しました。

記者発表で野志市長は「来年度は道後温泉本館改築120周年と松山の観光にとって重要な年。『道後オンセナート2014』と合わせて、盛り上げていきたい」と期待を寄せました。

同ミュージカルの脚本・演出は「ミュージカル正岡子規」などを手掛けた坊っちゃん劇場名誉館長・ジェームス三木さんが行い、ミュージカルは2014年4月から開演予定です。

お問い合わせは、文化・スポーツ振興課☎948-6634・FAX 934-1287へ

道後温泉に新キャラクター「ゆだまん」誕生

「道後オンセナート2014」の一環で「湯玉」をモチーフにした新キャラクターが10月10日、子規記念博物館で発表され、その公開制作が行われました。

姿・形ともに個性豊かな「ゆだまん」

「道後オンセナート2014」の参加作家である信耕ミミさんの指導で、道後商店街と手作り雑貨ブランドSLOW（スロー）LABEL（レーベル）が協働して制作。粘土で作られた「ゆだまん」は道後商店街の店主らの個性が反映され、その姿は十人十色。公開制作では道後商店街の店主らによる色付けが行われました。

一つずつ丁寧に色付けを行う

完成した約50体の「ゆだまん」はアニメーション制作に使用されるほか、1体を選挙で選び出し着ぐるみ化するなど、道後の新名物として活躍する予定です。

保存してください。いつかまた お役に立ちます